

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

- | | | |
|----|-----------|--------|
| 1. | 工学部・工学研究科 | 研究 1-1 |
| 2. | 技術経営研究科 | 研究 2-1 |

工学部・工学研究科

I	研究水準		研究 1-2
II	質の向上度		研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、アジアグリーンテック開発センターの設置によるアジア地域での研究者の養成も行ない、人材育成にも協力している。平成 19 年度の発明届けは 95 件であるほか、12 の他大学、研究機関との共同研究を行い、さらに企業等との連携も活発に行われている。研究資金の獲得状況について、科学研究費補助金、競争的資金の獲得は、順調に伸び、産学融合トップランナー発掘・養成システムの採択実績もあるなどのことは、優れた成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した研究成果として、材料分野では、有機合成化学において高効率・高選択的有機的合成法の開発に成功した研究、STM による原子レベル以下の精密位置決め法を提案した研究がある。また、エネルギー分野においては、新しいエネルギー変換触媒機構を発見し、新規固体触媒を創製した研究、水の分解を太陽光の可視光 500nm で行える触媒の開発に関する研究がある。情報分野においては、新

しい制御、アンチスリップ制御を実現し、電車に応用されている研究が挙げられる。バイオ分野においては、アルツハイマー病を引き起こす酵素作用の研究がある。国際的な賞、学会賞を受けた論文も多い。社会、経済、文化面では感圧導電性センサーに関する特許、脳機能計測装置に関する特許が実用化に向けて取り組まれていることは、相応の成果である。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、判定を以下のとおり変更し、第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、材料、情報、エネルギー・環境、バイオ及びそれらの融合分野の業績に対し、国内外の学会において各種賞を受賞し、新聞・テレビ等でも報道されるなど高く評価されている。また、バイオ及びバイオを主とした融合分野の業績に関連する特許が、民間業者の特許・技術調査により、高い評価を得ているなどの優れた成果がある。

以上の点について、工学部・工学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、工学部・工学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 7 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

技術経営研究科

I	研究水準		研究 2-2
II	質の向上度		研究 2-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、教員一名当たりの論文数が 5.9 件（平成 19 年度）であり、安全関係の研修・セミナーの講師、メディアでの解説、各種の技術相談等にも広範に取り組んでおり、また、研究活動や研究成果の社会への還元にも活発に取り組んでいる。研究資金の獲得状況については、企業等との共同研究・受託研究が多数あり、また、各種の公的助成プログラムの資金を獲得していることなどは、相応な成果である。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、社会、文化、経済面における優れた研究業績として、例えば、技術者・開発者が負うべき安全責任に関する論文や、鉄道信号システムにおける機能安全に関する論文等の当該研究科の目的に適合した成果を上げている。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、技術経営研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、

研究成果の状況は、技術経営研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が 3 件であった。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間終了時における判定として確定する。

